

百害あって一利なし

大阪市廃止・分割構想

⑦

中身はポロポロ

維新は当初、2011年の住民投票で否決された案を「バーションアップ」したといいました。しかし、最初から議論はつまずき、

「へ回す」など、自治体のあり方からは程遠いものです。

維新の松井一郎代表（大阪市長）は、「来春から始める」出前法定協では反対意見は遠慮を」と語っています。

想は何重ものペテンに包まれてきました。11年の知事・大阪市長ダブル選で維新の法定ビラは「騙（だま）されないで下さい。大阪市はなくしません。バラバラにしません」でした。

草の根から運動

11月27日に開かれた「明るい民主大阪府政をつくる会」

「大阪市の根の運動がはじまっています。」

また、市内の各地で町会長や民生委員、医師の人たちとの立場を超えた話し合いなど草の根の運動がはじまっています。

市民の力でストップを

たたかいこれから

さまざまに繕ったあげく、でてきたのは「中義のかげらもない発言之島合同庁舎案」「住民サービスは移行時のみ維持。後は『努める』だけ」「カジノ頼みでその利益を『特別区』

た。15年の住民投票では、「ラストチャンス。2度目の住民投票はありません」と宣伝しました。今回は「密約」と「脅かし」で、ことをすすめてきました。

をよくなる会」の「府民のつどい」では、平松邦夫元大阪市長、立憲民主党の森山浩行府連代表代行が日本共産党の辰巳孝太郎前参院議員とともに壇上にたち、パネルディスカッションでは市議、学者、ジャーナリストが

この連載は日本共産党大阪府委員会政策委員会が担当しました。

（おわり）

維新は公明党を屈服させるなど「数の力」で法定協での議論を強行してきました。しかし、中身のポロポロぶりは、回を重ねるごとに、浮き彫りになっていきます。

大阪市長は「来春から始める」出前法定協では反対意見は遠慮を」と語っています。

「共同の力」「論戦の力」「草の根の力」で維新者を、ジャーナリストが

この連載は日本共産党大阪府委員会政策委員会が担当しました。

この連載は日本共産党大阪府委員会政策委員会が担当しました。